

初弾に大成ロテック、武山興業

3・11伝承ロード推進機構

3・11伝承ロード推進機構 別企画としてスタートさせた映像アーカイブ事業の第1回認定証交付式を開いた。初弾には、仙台市内で東日本大震災10年特



左から西田社長、今村代表理事、武山社長

大型放水車を福島第一原子力発電所に届けるため、過酷な状況下で国道6号を復旧させた大成ロテックの『第二の水素爆発を防げ』と、自らも被災しながら命がけで孤立避難所への道路を啓開した武山興業（宮城県石巻市）の『地元を守れ！』の2作品が選ばれた。

アーカイブ事業は、建設業団体や企業、個人などが、危険を顧みずに尽力した復旧活動や復興事業などの軌跡を映像資料として「見える化」し、記憶と記録を後世に継承する取り組み。

東日本大震災の映像アーカイブ作品

作品は同機構ホームページ(<https://www.311denso.or.jp/archive/index.html>)で視聴できる。

交付式では両作品の試写に続いて、西田義則大成ロテック社長と武山隼人武山興業社長に今村代表理事から認定証が手渡された。

今村代表理事は「震災の記憶が風化しつつある中、ともに当時の経験や体験を伝える素晴らしい作品だ」と強調。西田社長は「当社の宝物として、社員の士気向上に役立てるとともに、建設業を志す若者にも紹介したい」とし、武山社長も「各社がそれぞれの物語を映像化することで風化の防止に努めてほしい」と語った。